

令和4年6月27日

東京保育専門学校
校長 松本 勲 武 殿

東京保育専門学校
学校関係者評価委員会

学校関係者評価委員会報告

令和3年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1 学校関係者評価委員

- ①野上 秀子（東京都私立幼稚園連合会理事、私立久我山幼稚園園長）
- ②浜口 順子（お茶の水女子大学文教育学部人間社会科学科教授）
- ③加藤 路子（公益財団法人全国高等学校家庭科教育振興会事務局長）
- ④山本 祥子（れんげ武蔵村山保育園副園長、本校卒業生）
- ⑤松浦 栄子（私立サンタ・セシリア幼稚園園長）
- ⑥竹内 嘉美（保育科1部在学学生保証人（保護者））
- ⑦中嶋 早苗（保育科2部在学学生保証人（保護者））
- ⑦横田 純二（横田公認会計士・税理士事務所所長）
- ⑧大沼 康（株式会社矢島工務店代表取締役、東京商工会議所杉並支部地域振興委員会
高円寺ブロック 副ブロック長）

2 学校関係者評価委員会の開催状況

- 第1回委員会 令和3年11月4日（オンライン会議）
- 第2回委員会 令和4年3月24日（オンライン会議）

3 学校関係者委員会報告

別紙のとおり

以上

I 重点目標について

1 重点目標について

重点目標に掲げた3項目について、昨年度よりも項目数は減少しているが、明確な目標として理解しやすく、コロナ禍の中でも確実に推進が必要な内容であり、堅実な目標である。また、コロナ対策もある中、適切に対応してきたことを高く評価したい。

特筆すべき点として、以下を挙げる。

- ・コロナ禍の中では、特に現場実習においては実習園での受け入れ調整を含め困難な状況が想定されるが、感染予防対策等において適切な対応を行い、現場実習を行うことができたことは高く評価したい。
- ・学生のインターネット環境の整備やPC貸与など、コロナ対策としてだけでなく今後の多様な教育、指導を行う上での投資になったと思う。コロナが収束しても、授業環境としてこれらを活用し、学生の学習意欲を高めるために活用していただきたい。
- ・e-Learning方式による保育士等キャリアアップ研修は財務基盤の強化につながるという面もあるが、保育士の処遇改善に取り組む国のニーズにも適合しており継続して取り組んでもらいたい。一方、これらの事業の展開により教職員の負担が増していることが懸念される。保育士等キャリアアップ研修に受講生として参加する現職者の経験値を、学生の授業やキャリア学習に活かしたり、タイアップしたりするなどして活用し、より効率的な運営を図ることも今後検討していただきたい。

II 各評価項目について

1 教育理念・目的・人材育成像

昨年度から引き続き、建学の精神、教育理念を明確にしており、それに基づく方針や目標設定があり、目標達成のために堅実な取り組みが行われていることを評価する。課題と感じられる部分もあるので、引き続き改善に取り組んでいただきたい。

特筆すべき点として、以下を挙げる。

- ・新型コロナの感染流行により、職員総会（非常勤講師も含む学校教職員全員による会議）や校外セミナーを実施できなかったのは残念だったが、今後は、これまでの開催方法にこだわらず、可能な形での開催に取り組んでほしい。職員総会あるいは、常勤職員だけの会議においても、オンラインを活用して、教育理念・目的・人材育成像の共有をめざし、なるべく具体的な事例を用いた、実践的な研修の場となることを目指すとよいのではないかと考える。

2 学校運営

昨年度の運営状況を踏まえ、より良い学校運営のため方針、事業計画が組まれている。運営方針は、全教職員に共有され、一体となって学校運営を進めていく体制がとられている。定めた目標や事業計画に対して、組織的に進捗が図られており、評価できる。

特筆すべき点として、以下を挙げる。

- ・コロナ禍の中で、非常勤講師を含めた職員総会の開催が難しくなり、運営方針等について学校内での意思疎通に課題があるという部分については、昨年度から引き続いている内容なので、基準1でも触れているがオンラインでの開催方法に変更するなどして、ぜひ来年度は改善できるよう取り組んでいただきたい。

3 教育活動

理念・目的・育成人材像に沿って教育課程の編成が行われ、シラバスや履修カルテなどを活用し、計画的な教育活動が行われている。また、専門学校として、職業能力の獲得に根差し、実践知の修得を重んじた教育内容が組み立てられており、特色あるものとなっており評価できる。

特筆すべき点として、以下を挙げる。

- ・コロナ禍の中ではあったが、今年度も感染対策をしながら基本的に対面授業を継続できたこと、現場実習を実施できたことは、職業能力、実践知の修得のための教育効果を考えたときにとても重要で、教職員の努力を高く評価したい。
- ・神父様の講話は、宗教やカトリックという宗派等に興味のない方でも理解できる、普遍的な人間愛に関する大切な内容であり、豊かな人間性の涵養を目指す当校にとって重要であるとともに、学生本人にとっても学生生活や学びにおいて支えになるものだと思う。来年度以降も引き続き大切にしてほしい。
- ・教養特別講座は当校ならではの授業として特色があり、資格を取るだけでなく、保育者として大切なことを様々な視点から捉えられるものとなっていて素晴らしい。

4 学修成果

就職率、就職先選択肢の幅広さ、資格・免許の取得率、卒業生の社会的評価等からその学修成果は高く評価できる。

特筆すべき点として、以下を挙げる。

- ・ 公務員試験合格者 10 名、社会福祉事業団合格者 12 名という今年度の実績は本当に素晴らしい。学生にとって、施設種別だけでなく、運営法人の選択肢においても幅広くカバーされている環境は望ましいことなので、ぜひ来年度以降も継続して取り組んでいただきたい。
- ・ 93 年の歴史を経て、多くの卒業生がすでに管理職にもなっている。こうした卒業生たちにとって、母校から同じ職場に入職してくれることはとても喜ばしいことであり、温かく見守っていきたいとも考えている。ぜひ先輩たちの胸を借りるつもりで、誇りを持って保育現場に飛び込んで行ってほしい。

5 学生支援

学生への支援体制として、就職支援や学校生活上のサポート体制、学生相談の仕組み、経済的支援の制度が充実しており、評価できる。

特筆すべき点として、以下を挙げる。

- 入学当初からコロナ禍に見舞われ、思い描いた学校生活ではなかった学生がほとんどだと思うが、多くの学生が無事に卒業を迎えることができ、学校の対応やサポートの成果の現れでもある。コロナの影響で実習が延びてしまうこともあったが、教員からメールでもらうメッセージなどが本人の励みになっていたとのエピソードも聞いている。
- 進路変更により退学する学生がいるとの報告があり、残念なことではあるが、反対に、入学後の学びを続ける中で保育者になるという目標や自覚を明確にすることができた学生もいる。改善点だけでなく、しっかりと評価できるところは自認していただき、継続して行ってほしい。
- 学生ひとり一人が保育者としての適性や能力をしっかりと備えているかを見極める役割も、学校にはあるのではないかと思う。難しいこととは承知しているが、このような視点も踏まえて、引き続き学生支援に努めていただきたい。

6 教育環境

教育環境として、現場実習の重要性を重んじており、昨年度に続きコロナ禍の今年度においても、実習園と連携しながらすべての実習を実地で実施しており、評価できる。また、施設・設備面の環境整備については、年次計画を立てながら進めており、老朽化にともなう改修や ICT 環境整備等に取り組み、評価できる。

特筆すべき点として、以下を挙げる。

- ・以前と比べ、授業内において日常的に PC を活用する場面が多くなってきている状況を伺い、保育現場に入職した時点から当たり前で PC を使えるスキルが身につけていることが期待でき、評価できる。
- ・昨年度に引き続き、コロナ禍の中での実習は日程調整や感染対策など様々に苦労があったと思うが、しっかりと実施し、就職活動にも大きな影響を出さずに済んでいることは高く評価できる。

7 学生の募集と受入れ

2022年度入学生の状況について、入学者数の減少は残念である。総定員の確保は毎年の目標となっているが、今年度も未達となり、さらなる工夫が必要である。事実に基づく広報活動、適正な入試制度の運用等については、例年通りではあるが、しっかりと実施できており評価できる。

特筆すべき点として、以下を挙げる。

- 学費改定（増額）を入学者減少の一因としているが、他の専門学校と比べて高額とは言えない。「他校と区別できる魅力は何か？」を明確にしていくことが肝要である。
- 当校の魅力を明確にしていく取り組みの中で、ぜひ在校生の声も聞いて考えてみてほしい。
- 広報の手法として、オンライン個別相談や学校紹介動画作成は、今後も充実させていっていただきたい。
- コロナ禍の中で、高校生たちの校外での保育体験の機会が減少しているため、保育士や幼稚園教諭になりたいと実感できる機会が少なくなっていることが、受験者数減につながっている可能性も考えられる。

8 財 務

昨年度と比較して収支改善は進んできており、学園全体での決算が黒字化見込であることは評価できる。中期計画の策定は途上であるが、今実施している諸施策の効果を見極めるためにも、3～5年程度の目標値の設定は行う必要がある。

特筆すべき点として、以下を挙げる。

- ・ 中間報告の際に、自己評価報告書の記載方法の改善を求めたが、最終報告ではその点が修正されており、目標設定と結果、今後の対策がそれぞれ明確になりわかりやすくなった。
- ・ 経費削減と収入の増加（学費改定、学生数増加、新たな収益源の開発）が必要だが、一気に全てというのは難しいと考えられるので、一つ一つ積み上げて達成してほしい。
- ・ 中期計画について、変化の激しい時代において、長期間の将来構想を描くというのはなかなか大変なところもあると思うが、せめて今進めている諸施策について3年～5年後の目標値を定めるということはやっておくべき。

9 法令等の遵守

関係法令に関する最新の情報を把握し、法令遵守の観点から適切な学校運営が行われている。また、昨年までなかなか進んでいなかった規程の整備等が完了し、進捗が図られたことは評価できる

特筆すべき点として、以下を挙げる。

- ・目標設定されていた学内規程の整備について策定が完了でき、取り組みを評価したい。
- ・新たに整備された規程に基づいた運用のための研修の実施と、これから出てくるであろう運用中の課題への対応に引き続き取り組んでいただきたい。

10 社会貢献・地域貢献

学校としての地域貢献の観点から、また社会貢献・地域貢献の意識を持った保育者を養成するという観点から実施している例年の活動について、コロナ禍の影響を受け自粛してきたのが昨年までだが、今年度も同様である。一方その中でも実施できている e ラーニング形式の公開講座などは活動として評価できる。コロナの状況が今後も見通しが立たない中で、特に学生のボランティア活動については、今後コロナ流行状況の改善を期待するしかないのではないかと考えられる。

特筆すべき点として、以下を挙げる。

- ・昨年度実施できなかった保育士等キャリアアップ研修は、e ラーニング形式を採用することにより実施を再開することができ、また多くの参加者の実績があり、評価できる。
- ・国際交流について、現状では入国管理法の問題もあって、当校のような保育・幼児教育分野の学校では留学生の受け入れは難しいと思うので、留学生受け入れ以外のアプローチの方法も検討する時期にきている。カトリックのネットワークもあるので、それを活用することも一つの手ではないか。国際交流は、学生にとっても学生生活上の楽しみの一つになりうるので、検討してほしい。
- ・ボランティア活動の実施が難しいのは仕方ない。保育、教育以外の業界でもまだまだコロナに対する警戒は解けておらず、この先もしばらくは難しいのではないかと感じられる。